

やまゆり

学校だより

令和5年9月13日
40号
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」一気づき・考え・実行する一
校内研究重点 「WEBQUを活用し、学級の安定と活性化を図る」

学校教育目標重点 「居心地が良く、やる気のある学級・学校づくり」・「保護者・地域連携」

第49回「若鮎祭」を一人一人が「問う」ことの大切さ

9月9日(土)、10日(日)に第49回「若鮎祭」を開催しました。山本PTA会長をはじめ、役員の皆様、保護者の皆様には多大なご協力を頂きました。本当にありがとうございました。

生徒の主体性と協働性。そして、満面の笑顔。生徒と教職員の努力による感動。とても成果の多い若鮎祭でした。今後学校では、若鮎祭を一人一人の生徒が言葉で振り返り、どんな学びや成長があったのかを「問い」ながら明確にしていきたいと思えます。



出来事を、事実として言語化することは不可能です。誰かが「何かを伝える」ことは、全体からその部分を切り取って伝えており、同時に「何かを伝えていないことを確認したいと思えます。だからこそ、情報は「問う」ことが重要です。新聞を例にとれば、何かの事件も各新聞社によって伝える内容が違います。これは、事実は情報を伝える人の「解釈」であることを示しています。

各自にとって大切な学び、大切な意味づけを「問い」ながら明確にし、それを皆で「共有」することを通して「真実の学び」が明確化されます。

以下に校長としての振り返りを紹介し、生徒の皆さんの学びに生かしてほしいと思えます。

1 心と体の健康の重要性を問う

今年は、過去最高の猛暑による「熱中症対策」、「新型コロナ感染症対策」、「インフルエンザの感染症対策」、「怪我対策」等も必要でした。練習や本番の場所に「自分がいる」ことの重要性を考えると、心と体の健康の重要性を強く感じました。

今後の3年生の教育課程到達度確認検査や新人戦等にこの学びを生かしたいと思えます。

2 目的・目標・テーマ・種目や取り組みを問う

行事の目的 ・他者を尊重し、協働し、主体的に活動しながら一人一人が成長する

生徒会目標 ・縦割り・全校での交流を広げ・深め、昨年度を超える新たな活動・伝統を創る
・話し合い活動を通して、課題を改善しながら自治的な活動をする
・リーダーシップ・フォロワーシップを発揮し、協力・協働する

テーマ ・「No Limit」(限界を超えろ!) ※心と体の健康を守り、新しい自分づくり
・「各種目そのものの意味」や「取り組み中や本番での学び」

3 見方・考え方を問う

例 ・本気で一生懸命取り組むことの意義

- ・結果ではなく、取り組みの過程の主体性や協働性等から学ぶ
- ・活躍したのはリーダーの人たち⇨人と比べるのではなく、各自の成長を認め讃える
- ・新しい自分・新しい友人・新しい学級・新しい縦割り班・新しい道志中学校
- ・友人の言動から、「勇気」について考える
- ・興奮と感動の違いを問う・挑戦し、向上し、創造することの意味
- ・人間関係の「安定」を保つための付度と同調⇨各自が自分の思いを表現し解決を探る
- ・いかなる時もベストを尽くせ！ 今できるベストを尽くすことの意味

4 学びの意味を問う

- ・学校には、テストの点数を上げるために来ているのか
- ・「社会に貢献し、自立できる生徒の育成」の意味
- ・道志村の一員として、ふるさとや地域に貢献すること
- ・学び続けることの重要性・勉強と行事、部活動の両立 ⇨ 学びからの逃避

5 主体性・協働性を問う

- ・指示待ち・言われたことだけ素直にする→今後の社会で通用できるか
- ・自分の事として主体的に取り組み、他者と協働して困難を乗り越え、新しい考え方や文化を創造する

6 指導して下さる方々・家族・友人・地域の方々の存在を問う

- ・誰かの困り感を自分のことと捉えて協力してくれる姿勢・行動・役に立つことの喜び・・



文化部門を問う

開祭式

○何を伝えようとしていたかを問う

・テーマの意識づけ・各部門の見どころ紹介・各学年の意気込み・演技者と観客の一体化

○どのように表現していたかを問う

・3年生の表現の仕方 舞桜さん・絢花さん・紫龍さん等の「伝える」意識の高さ



「文化とは、人間の精神から生み出される表現」 道志村で一番文化の高い日を目指す！

1 弁論発表を問う

① 「渡辺脩大」さん 自分の体験を見つめ、より良い人間関係について考える

② 山本千莉さん 「三助法でいじめを予防する」どうしても伝えなかったことと表現の仕方

○道志中学校の生徒ならではの表現内容と、思いを伝える表現方法^{れい}
嶺さんの準備



2 総合的な学習の時間の発表を問う

○ふるさと道志村を維持・発展させるために一人一人が道志村の魅力や提言について自分の思いを表現し、聞いて頂き質問し、意見を頂き、再度より良い意見を構想する探究学習

○校内ではなく、保護者や行政、地域の方々と一緒に道志村について語る時間の意味。多様な方々との学びの中で一人一人の生徒が成長する学びの機会。

身を乗り出して伝える表現

教育長さんも助言

親子・地域の方と故郷を語る



3 縦割り班での表現活動 テーマ 「いじめ防止」

- 「身近な平和を実現」するために、生徒自らいじめ防止のテーマを設定した取り組み
- 縦割り班(異学年)で協力し、シナリオも各班で全て考え、5時間かけて表現した。
- A班 いじめの当事者の犯罪・全国のいじめ実態について報告し道志中の安全を提示
B班 いじめ問題の大きな要因は、傍観者の存在であることを重視。深い理解で表現
C班 おとぎ話の中にある「加害」について問題提起 いじめ問題の奥深さを表現
- 各班の単独の発表の良さに加え、3班で表現する事で「いじめ問題」を様々な角度から考えさせ、予防する試みの意味 いじめ問題についての知識・技能を活用し、生徒自らが演技を通して訴えるいじめ予防は先進的。山梨県・全国でも有数の価値ある発表



C班



B班

全校での「いじめ防止発表」の意味を問う

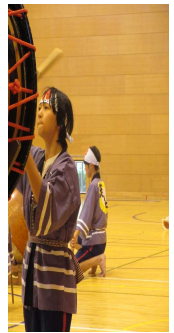


4 七里太鼓発表(各学年・全校)

1年生 「富士三段返し」



2年生 ^{やぶさめ}「流鏝馬太鼓」



3年生 「雷太鼓」



全校生徒 「若鮎太鼓」



地域の方が講師として
道志村の文化を伝える
指導 佐藤光男さん



